令和六年度

青少年の健全育成に関する

作文コンクール作品集

川口市青少年保護育成本部

川口市教育委員会

目　次

＜最優秀賞＞

楽しさであふれる学校とは　安行東小学校　四年　河合　彩桜　2

将来の自分への贈り物　安行中学校　一年　小山田　幸望　4

＜優秀賞＞

「笑顔のあいさつ」　辻小学校　四年　正津　みのり　8

努力は積み重ね続けるもの　辻小学校　六年　原　穂乃佳　10

きれいな街を目指して　川口市立高等学校　三年　金井　颯大　12

私たちの行動で変わる住みやすい街　附属中学校　三年　大鷹　日菜子　14

私の大好きなもの　附属中学校　十二月田中学校　三年　福原　蒼大　16

成長痛と向き合う僕　安行中学校　一年　大塚　栄汰　18

<入選>

委員会の楽しさ	青木中央小学校	五年	鈴木　智敬	22
学校の楽しいところ	安行小学校	四年	小久保　波那	24
今がんばっているトロンボーン	安行小学校	四年	髙山　結生	26
憧れを忘れない	川口市立高等学校附属中学校	二年	尾茂田　葵	28
強い人になりたい	川口市立高等学校附属中学校	二年	佐川　実胡	30
人々の幸せのために	青木中学校	三年	西原　花音	32
他の国の人と仲良くするために	青木中学校	一年	椙木　彩琶	34
「私の街をこれからも」	南中学校	二年	髙槝　夏絆	36
住みやすい街とはどんな街か	安行中学校	一年	山口　華凛	38
「住みやすい街」とはボランティアを通して	西中学校	一年	吉田　晴哉	40

＜佳作＞

ＭＬＢ全国大会	辻小学校	四年	樋地　春來	44
今がんばっていること	安行小学校	四年	髙木　陸乃斗	46
「五年生に入っての委員会活動」	青木中央小学校	五年	鈴木　杏璃	48
将来のために今、していること	西中学校	二年	佐藤　百	50
まだ十四歳	南中学校	二年	栗矢　樹奈	52
受験生の私が頑張っていること	青木中学校	三年	八木沢　優里	54
成長するために頑張っていること	青木中学校	三年	佐藤　妃花哩	56
素敵な大人になるために	青木中学校	二年	鬼本　そら	58
将来のために頑張っていること	青木中学校	三年	亀田　ひな	60
「目標に向かって」	青木中学校	三年	野平　桃叶	62

令和六年度　作文コンクールテーマ

小学生の部

・学校の楽しいところ

・今、がんばっていること

中学生の部

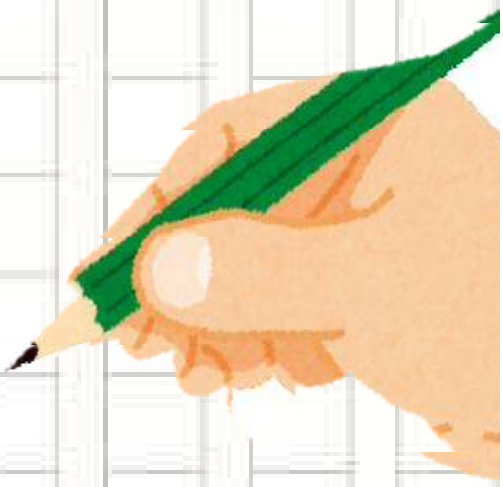
・将来のために今、頑張っていること

・住みやすい街とはどんな街か

応募総数　３７７作品

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞



楽しさであふれる学校とは

安行東小学校　四年　河合　彩桜

「おはよう。」

学校へ行くと、先生や友達の声と笑顔であふれています。それを見ると、自然と私も楽しい気持ちになります。そして、学校の楽しいことは何かなと改めて考えてみました。授業も面白いし、休み時間もいろいろな遊びが出来るし、給食もとてもおいしいし、クラブもレジン作りなど好きなことをたくさんしてくれます。このように思うと、楽しいことばかりだなと実感しました。この楽しさでも、これだけは負けない、すごいんだ、というものが二つあります。

一つ目は、クラス内のレクがたくさんあることです。学級会を通して自分たちでやりたいレクを考えたり、先生が空き時間を使ってわくわくするレクを考えてくれたりします。今までたくさんのレクをしてきましたが、中でも最高に心に残っていることは、水遊びと夏祭りです。水遊びは、水着を着て水鉄砲を持ってびしょびしょになって遊びました。水をかけ合いながら逃げるドキドキ感やみんなのはしゃぐ姿は、今でも思い出すと笑ってしまいます。夏祭りでは、ヨーヨーやわたあめ、輪投げなど、グループごとに担当を決めて一つ一つ手作りで仕上げました。私はヨーヨー担当でしたが、みんなが、

「すごい、むずかしい、でも楽しい。」

と言ってよろこんで遊んでくれる姿を見て、がんばって作って良かったとうれしい気持ちになりました。他のグループも一つ一つが本格的でワクワクでいっぱいでした。レクは、ただ楽しいだけではなく、友達との絆が大きく深まるすてきな時間です。今までの一つ一つのレクが私にとって大切な思い出になっています。

二つ目は、クラス・学年の仲の良さです。そして、なによりもみんなやさしさを持っています。私は、楽しさを感じるには、この仲の良さややさしさがとても大事だと思っています。遊ぶ時も男女関係なく声をかけ合い、困っている子がいればみんな助けに行きます。勉強もライバルになりながらもそんけいの気持ちを持っています。何か決

めるときも、いろいろな意見をみんなが認め合い納得することを大事にしています。私は、こんなクラス・学年が大好きです。これからも友達と楽しい思い出をたくさんふやして、すてきな学校生活を送りたいと思います。

今、私が学校を楽しいと思えることはとてもすてきで幸せなことです。これから学校生活を送る中でつらいなとか大変だなと思うことがきっとたくさんでてくると思います。そんな時に、今までの楽しい思い出や先生や友達との絆が大きな力になってくれると思いました。だからこそ、今の楽しい学校生活一つ一つを大切にしてきたいです。また、私もたくさんの友達に楽しさを与えられるようにがんばろうと思います。

将来の自分への贈り物

安行中学校　一年　小山田　幸望

中学生になり、僕の生活は大きく変化した。中学生になったことで、小学生のころと比べて時間の使い方がより大切になったのである。僕は東京のサッカーチームに通っているのだが、移動の往復だけでも二時間以上の時間がかかってしまう。帰宅するのは午後十時を回る。そのため、勉強をする時間とサッカーをする時間を両立させることはかなり大変なことだ。下校後は、少しはのんびりとしたい気持ちをおさえて宿題に取りかかり、早めの夕飯を食べたら練習着に着替え、駅まで自転車で向かう。家を出るまでは時間との戦いなのである。定期テスト前は、より時間の使い方が重要になってくる。

そこで僕が実せんしていることは、テスト前までに残されている時間と自分が勉強したい時間を照らし合わせ、どの教科をいつ、どれくらいやるのかを決めて、紙に整理しているのだ。具台的には、各教科ごとに取り組む内容を書き出して、それを一コマ三十分程度で終わるくらいの量に振り分け、その振り分けたものをどの日に行うかをカレンダーに落としこんでいる。その計画にそって勉強するのだが、もちろん用事ができたり思うようにできない日などもあった。そんな時は、また調整をしながら進めるようにした。

このような勉強の仕方をしていくことで、計画的に物事を進められるようにもなったし、サッカーと勉強の両立が上手くできるようになった。物事を計画的に進められることは、将来仕事に就いた時に見通しをもって行動できることにもつながり、役に立つと思う。

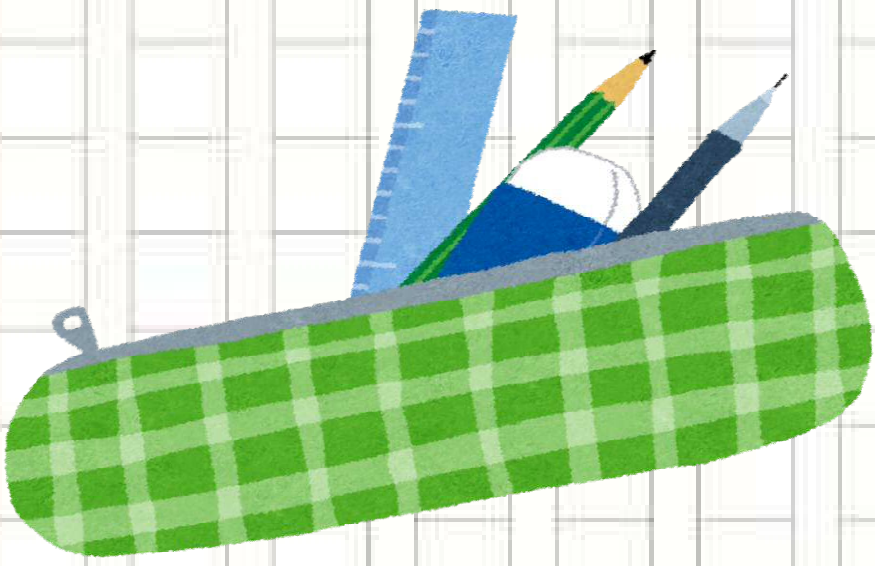
取り組んでいることはこれだけではない。僕は学校で学級委員長を務めている。学級委員長はみんなの前に立って発表したり、学年全体をまとめるという仕事がある。委員長をやっている中で、これらの仕事についても自信がついてきているし、自分の成長にもつながっていると感じる。また、委員長をやっている上で大切なことは、一人で全て解決しないことだと思っている。自分の周りには、同じ委員会の友や先生がいる。そのような人達に相談などをするうちに、意見を深めたりしな

がら人との接し方も学ぶことができている。将来、仕事をしていて困った時に人との接し方を知っていたら、上手く声をかけることができ、相談できると思うし、人前で発言をした経験などがあったら、プレゼンなどがあったときに自信を持って発言することができるだろう。

このように、僕が今頑張って取り組んでいることは、全て将来の自分につながっているのだ。大人になるまでの間にどれだけのことを吸収できるかで今後の将来が大きく変化するのだから、これからも継続して将来のために今できること、今しかできないことを全力で三年間やりぬいていきたいと思う。また、休日に友達と遊ぶ時間も大切にして思いきり遊びたいし、サッカー仲間とは同じ目標に向かってこれからも全力で練習にはげみたい。学校の校外学習などは自分の引き出しを広げる良い機会でもあると思うので、積極的に取り組んでいきたいと思っている。

中学校生活は三年間しかないので、きっとあっという間に過ぎて行くだろう。小学校の六年間でさえも終わってみれば早く感じたほどだからだ。まずはこの三年間の時間をムダにすることなく、精一杯頑張って将来の自分につなげていきたい！

優秀賞



「笑顔のあいさつ」

辻小学校　四年　正津　みのり

今年の五月、校長先生からこんな話がありました。あいさつは、「明るく」「いつも」「先に」「伝えられるように。」あいさつをする時には、いつも頭にうかんでいます。

私はあいさつがとても苦手です。なぜかというと、相手に聞こえる声で話しかけるのがきんちょうしてしまうからです。特に地いきの方にあいさつをするのは、家族や先生、友達よりもむずかしいです。

三年生のころ、通学はんで学校に向かっていると、毎朝同じ場所に立っているおばあさんがいて、少し気になっていました。でも、「あいさつをするのはいいこと」と分かりながらも自分からあいさつをすることができず、下を向いて通りすぎていました。

四年生になり、通学はん会ぎでたんとうの先生から、「地いきの方々はみんなを守ってくださっているんだから、ちゃんとあいさつをしてください。」とお話がありました。そのとき、あのおばあさんも、私たちが安全に通学できるように見守ってくれていたんだとわかりました。そして、雨がふっている日も、暑い日も外に出て見守ってくれているから、ありがとうの気持ちをこめて、明るく笑顔であいさつをしたほうがいいと思いました。

ある時またおばあさんに会ったので、どきどきしながら自分からあいさつをしました。するとおばあさんはにこっと笑って元気よくあいさつを返してくれました。その時私はとてもうれしくて、気持ちがよかったです。少しゆうきを出して行動することでこんなに気持ちがよくなるんだなぁと分かったこともうれしかったです。

今私は、登下校の時だけでなく、かっている犬のさん歩をする時にも、あいさつをいしきしてがんばっています。すると犬もしっぽをふって犬どうしであいさつをするのでおもしろいです。また、友達や家族にも、友達だから、家族だから、何も言わなくても分かるだろう…ではなく、「おはよう」「ごめんね」「ありがとう」当たり前のようなこともきちんと言葉に出すようにしています。そうす

ると、あいさつをした時もされた時も、気分が晴れやかになり、しぜんとほほえみます。

これからの課題としては、自分から明るく大きな声であいさつをしていきたいです。あいさつで心が晴れやかになることが分かったので、これからは私が明るくあいさつをしてあいさつをしてもらった方たちにも、笑顔になってもらいたいです。

努力は積み重ね続けるもの

辻小学校　六年　原　穂乃佳

私が、今がんばっていることは、勉強です。なぜなら、星や宇宙が好きで、将来、天文学者になりたいからです。

天文学者になるには、理学部物理学科天文学専攻の大学を卒業し、大学院で天文学や宇宙物理学の修士課程を修了し、博士号を取得することが必要です。そのため、日本人六万人あたりに天文学者は、わずか一人しかいません。このため、天文学者になることは難しいと考えられます。そのほか、勉強もしなければなりません。英語、数学、物理など、主に理系を勉強しなければなりません。どちらかというと、文系よりな私は、理系を人よりも勉強しないといけないのです。これらのことをふまえ、天文学者になるには、理系の大学を卒業し、大学院で、博士号を取得するために、勉強をたくさんしなければならないのです。

こんなに勉強、勉強言っている私ですが、実は、あまり勉強が好きでは、ありませんでした。

一年生のころから、通信教育を始め、現在でも続けています。一年生や二年生の初めごろまでの勉強は、簡単で、すぐに進んでいたのですが、二年生の中盤ごろになると、だんだんと勉強が難しくなり、勉強が進まなくなってから、勉強が、苦手になりました。何をやっても上手くできず、勉強がどんどん嫌いになって、二年生が終わってしまいました。春休み中にも、あきらめず勉強したりし、三年生になってからも、あきらめず努力をしました。すると、勉強にも、ついていけるようになり、教科書や通信教育の教材で、先どりをして勉強することも増えていきました。勉強すればするだけ、頭の中に知識が増えて楽しくなりました。

しかし、良いことばかりではなく、嫌になることもありました。教科書などは、絵があったり、図があったりして分かりやすいが、教材などは、文字ばかりで、あきてしまったり、図が書きにくい、書けないなどという、作図のときも、嫌になることがありました。

ですが、将来の夢のために、行きたい学校があ

るので、文字になれたり、図を自分で書いたりして、慣れていきたいです。

これからは、将来の夢の天文学者になるために、たくさん勉強して、まずは、長い道のりのスタートになる学校に進学したいです。

そして、中学校では、大きな夢や目標に対して、より細分化した目標を立てていきたいです。

きれいな街を目指して

川口市立高校附属中学校
三年　金井　颯大

埼玉県の中で人口が多い市の一つである川口市。人口が多いとその分ごみも多く出ます。川口市は埼玉県内で二番目にごみの排出量が多い市でもあります。しかし、最近では人口が増加しているのにも関わらず、ごみの排出量が減少しています。これは一人一人がごみ問題を重く受け止め、どうやったらごみを減らせるのかを真剣に考え、排出量を減らす努力をしているからだと思います。それでも、私が普段登校しているときに川の土手だったり、自販機の隣にペットボトルのポイ捨てがあったりとまだまだ改善できるところが散見させます。

私が思う「住みやすい街」は道端に捨ててあるごみがゼロで、とてもクリーンな街です。

こう思うようになったきっかけは、去年友達と共に行ったたたら祭りの経験があったからです。私たちが会場のオートレース場に着くと、入り口のほうからいい匂いが漂ってきました。その美味しそうな匂いに釣られて急いで会場に入るとそんな気持ちは一瞬にして吹き飛びました。会場内には様々なごみがポイ捨てされていました。特に割り箸や小さな袋が多かったです。少しがっかりしながら会場を回っているとさらに驚くことを見ました。それは、お祭りの関係者ではない人がごみを拾っていたからです。私たちはそれを見て、お祭りが運営できるのはそういう人がいるからだと感じました。

この経験の後、私たちは総合で「川口の未来へ」という川口市への政策提案をする活動を行ってきました。そのとき、私が目をつけたのは川口市の環境問題についてです。現状川口市の河川を見てみると、ポイ捨てされたペットボトルや粗大ごみが浮いていたり、生活排水がそのまま流されることによって川に油が浮かんでいたり、川が白濁し魚が死んでしまう等の問題が起こっています。また、街中にある自販機の周りには、ごみ箱があるのにポイ捨てされている空き缶やペットボトルを見かけたり、飲み物のごみではないプラスチック

の弁当箱等のごみがポイ捨てされていたりするのを見かけることがあります。そんな状況を打破するべく、私たちのグループでは飲料容器の分別をしてもらう方法を考えました。プラスチックを再利用してペットボトルを分別して回収する透明な回収機を作り、それにキャップとラベル、ペットボトルを分別して捨ててもらおうと考えました。回収したペットボトルの明確な再利用方法を街の人に実際目で見て実感してもらうことによって、ごみの分別回収の促進を促していくことを目標としています。この取り組みは実際に大分市でも導入されており、市役所本庁舎などで効果が確認されています。

もし、この方法でごみの削減に効果が現れれば、ごみの処理に使っている川口市の費用を削減することができ、教育の充実、道路の舗装やその他の様々な問題に費用を回すことができます。そうすれば住みやすい川口市を作るための一つの手助けになってくれると思います。また、燃やすごみの量が減ることによって排出する二酸化炭素の排出量が減り、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの減少につながります。そうなれば、地球全体で問題になっている温暖化を食い止めることに繋がっていくと思います。

前途の通り、一人一人のごみの排出量を見てみると、川口市は比較的頑張っているほうだと考えられます。しかし、残念ながらまだ街中にはポイ捨てされたごみが転がっています。わたしたちには、川口に住む者として住みやすい街を作っていく責任があります。わたしたちはこれからも引き続きごみの分別、減らし方について考えていこうと思います。そして、わたしたちの住む川口市を街にポイ捨てされたごみのない、川がきれいな街にしていきたいです。

私たちの行動で変わる住みやすい街

川口市立高校附属中学校
三年　大鷹　日菜子

住みやすい街とは何だろうか。川口市は「本当に住みやすい街大賞」で二〇一九年から二〇二二年までトップテンに選ばれ、さらには二〇二〇年と二〇二一年では二年連続で一位を獲得している。調べてみると五つの審査基準によって決まることが分かった。住環境、交通の利便性、教育・文化、環境、発展性、コストパフォーマンスだ。これら五つの観点ももちろん大切だと思うが、本当にそれだけなのだろうか。

私は本当に住みやすい街とは、「人のやさしさ」であふれている街であると考える。そう思ったのはごみ拾いをしている男性に出会ったからだ。部活が朝早くからあった日、学校までの道でごみを拾っている人に会った。何日か経つにつれ、普段登校するときは見たことがなかったので毎日朝早くから拾っているということが分かった。ごみを拾うことはもちろん大切である。しかし、赤の他人が捨てたものをわざわざ朝早くから起きて拾うという行動は私にはまねができないなど思った。自分がやっても誰かに褒められるというわけではなく自分には関係がないと思ってしまうからだ。そんなとき、道徳の授業で「社会を支える」というテーマがあった。これは雪かきをしている人の話だ。この人は誰かを喜ばせるためにではなく、その道を通る人たちがいつものように普通に歩いていけるように事前にやっておいている。この話を聞いたとき私が見たごみ拾いをしていた人に似ていると思った。これら二つはたくさんの人から目撃されるわけではない。しかし、誰かがしていないとその道を快適に通ることができない。つまり、このようなごみ拾いや雪かきをしている人は自分の事のようにとらえて行動しているのだ。

また、「自然の豊かさ」も大切であると考える。公園や川、海、森林などに自然があることにより四季折々の風景を楽しむことができる。このような環境は人々の目にやさしく心を癒してくれる。さらに植物の光合成により酸素を供給してくれるため空気が清浄である。これによりリラックスをすることができるだろう。また、自然環境が整っ

ていると多様な植物や動物が生息することができる。この生態系は重要な役割を果たしている。例えば樹木だ。前述で述べた通り樹木には酸素を供給する役割があり、空気の清浄につながる。鳥や昆虫は害虫の駆除や花の受粉を助けている。つまり、自然が豊かになることで持続可能な地域づくりにもつながるのだ。私の祖父母の家は自然が豊かな山の近くに建っている。そこでの夏の生活は涼しく快適に過ごすことができる。また、祖母は押し花をしており、押し花の作品を見ると花自体はよく見るものだが作品にすることで植物をさらに身近に感じることができた。つまり、植物は人々の五感を刺激することもできるのだ。

住みやすい街とは一概には言えない。もちろん本当に住みやすい街なのかを選ぶ審査基準も人々が快適に過ごす上で大切であるからだ。しかし、私の思う住みやすい街とはそれらに加え「人のやさしさ」や「自然の豊かさ」があふれる街であると考える。今の私には街を大きく変えることはできない。しかし、ごみを拾ったり植物に水をあげたりすることはできる。このような小さな行動でも街は変わっていけると思う。これからは見ているだけでなく行動に移していきたい。

私の大好きなもの

十二月田中学校　三年　福原　蒼大

私は音楽が大好きだ。ありのままの自分で輝ける音楽が大好きだ。私は、そんな音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えられる教師になりたい。

私は四歳からピアノを習っていた。ピアノを習い始めたことが音楽を大好きになったきっかけだった。楽譜に書かれている情報を自分なりに考え、理解する。それを元に好きなように表現する。このような過程を経て完成した「私の音」だけが会場に響く。あの感動と達成感が私は大好きだ。しかし、音楽の楽しさはこれだけではなかった。私は中学生になり、吹奏学部に入部した。部活動を通して私は「仲間と一つの音楽を作ること」の楽しさを知った。同じ旋律を吹いている人と何度も一緒に練習して表現を揃えたり、オーディションに向けてみんなで切磋琢磨したり、時には意見が合わず喧嘩してしまうこともあった。このようなことを通して「みんなで」作った音楽を会場に響かせる。私はこの瞬間が一番自分が輝いていると思う。一人で自由に表現するピアノも、みんなの心を一つにして一つの音楽を作る吹奏楽も、音楽を心から楽しい、私が輝けるかけがえのないものだと思わせてくれた大切な存在である。音楽は私の人生をより良いものにしてくれた。この素晴らしい音楽の楽しさを教えられる教師に私はなりたい。

音楽の素晴らしさを伝えられる教師になるためには何が必要か。私には二つのことが必要だと思う。

一つ目はたくさんの音楽を学ぶことだ。私はまだ、ピアノと吹奏楽しか体験したことがない。しかし、世界にはオーケストラやオペラ、讃美歌など、たくさんの音楽が存在する。このたくさんの音楽について学ぶことで、様々なジャンルの音楽の面白さや楽しさを伝えることができる。そのために私は、キリスト教の教育を取り入れている高等学校へ行き、讃美歌を体験することを希望しており、実現するために受験勉強に励んでいる。

二つ目は、全力で演奏し、全力で楽しみ、聞いている人が「いいな、私もやってみたい」そう思えるような音楽を奏でることだ。音楽は人の心を

動かすとよく言われているが、これは本当だと思う。実際私も、テレビで放送されていた演奏を聞いて、楽しそうと思ったことがピアノを習い始めたきっかけだった。私の音を聞いた人が「音楽を始めたい」と思えるような演奏ができるようになりたい。そのために、ピアノや歌、吹奏楽部で演奏していた楽器を今よりももっと練習し、演奏技術を向上させたい。また、気持ちのこもった音楽は人の心を震わせる。できないことを減らしていき、自信や楽しさに満ち溢れた音楽を奏でられるようになりたい。

勉強面でも音楽面でも、音楽の教師になるためにやらなければならないことはたくさんある。それらに取り組んでいく中で、心が折れそうになることもきっとあるだろう。しかし、私は諦めない。音楽は私の人生を彩ってくれた。そして、これからも多くの人の人生を彩っていくと思う。私はその手助けをしたい。私のように音楽のおかげで人生がより良くなったと思えるように、みんなの心から楽しめる、ありのままの自分で輝ける存在になれるように、私の大好きな音楽を、みんなも大好きになれるように。

成長痛と向き合う僕

安行中学校　一年　大塚　栄汰

僕は、ものごころついた頃からサッカーをやっている。小学生のチームに入っても一つ上の年に上げてもらって練習や試合に出してもらってやってきた。サッカーの練習、試合が天候不良でなくなってしまうことが、すごく嫌だった。

そんな僕にサッカーが出来ないことを考える日が来ることすら僕は考えていませんでした。

六年生のある日、サッカー中に踵に激痛が走り、練習を見学することになりました。チームの仲間がサッカーをプレーしていることが羨ましく思い、なんで僕だけ踵の痛みがでてサッカーができなくなるのだろうと、すごく悩みました。

お母さんと一緒に近くの病院へ行き治療していました。一週間、二週間が過ぎて、軽い体育や他のスポーツをしても、まだ激痛が走り、またしばらくの間サッカーを休まなくてはいけなくなる日々でした。いつになったら僕の踵の痛みは良くなるのだろうと悩む日々が長く続きました。サッカーチームに見学しに行けばチームメイトはサッカーを楽しそうにやっているし、僕が休んでいる間にみんなは上手になってしまって、あせる気持ちしかありませんでした。

病院の先生は「身体が成長している間に激しい運動をしている子は、なかなか治らないから、うまく付き合っていこうね」と言ってくれたのですが、僕はあせっていたので、その先生の言っていることがすごく嫌でした。

その理由は、川口トレセンに選抜されていたので、大きな大会でスタメンで出場したかったからです。正直痛みに耐えながら練習し、試合に出たいがために必死でした。大会当日も激痛に耐えながら僕は試合に出場していました。途中に相手と接触したときに踵を強打し、僕はもうこのまま試合にでていても、チームに貢献できないと思ったので、自ら「交代してほしい」と言いました。今までで一番悔しかったことに間違いありません。

それから、しばらくサッカーを完全にやすまないといけなくなった僕に両親が、「大きな病院で診てもらおうか？」と話をしてくれました。

初めて、その先生が僕を診察すると、「シーバー

病という成長痛だね」と先生が言って結果、先生からは身体が固いから「リハビリをして帰ってね。どんなスポーツも身体のストレッチがすごく大事だからね」と説明してくれました。それからリハビリの先生に教えてもらったストレッチを自宅でも学校でもやり続けて、自分の身体としっかり向き合ってストレッチする時間を必死になって取り組みました。

その時もう僕は中学のクラブチームに所属していたので、またあの頃の激痛がでたらどうしようと不安な気持ちがあったけれど、一ヶ月ぐらい休んだ頃にお母さんから「痛みがでるかでないかはサッカーをやってみないと分からないのだから、もうそろそろ練習参加してみたら」と言われて少し不安な気持ちもあったけれど、練習に参加してみました。

痛みもなく以前のようにサッカーすることができました。久々にサッカーを全力で出来てすごく嬉しかったです。

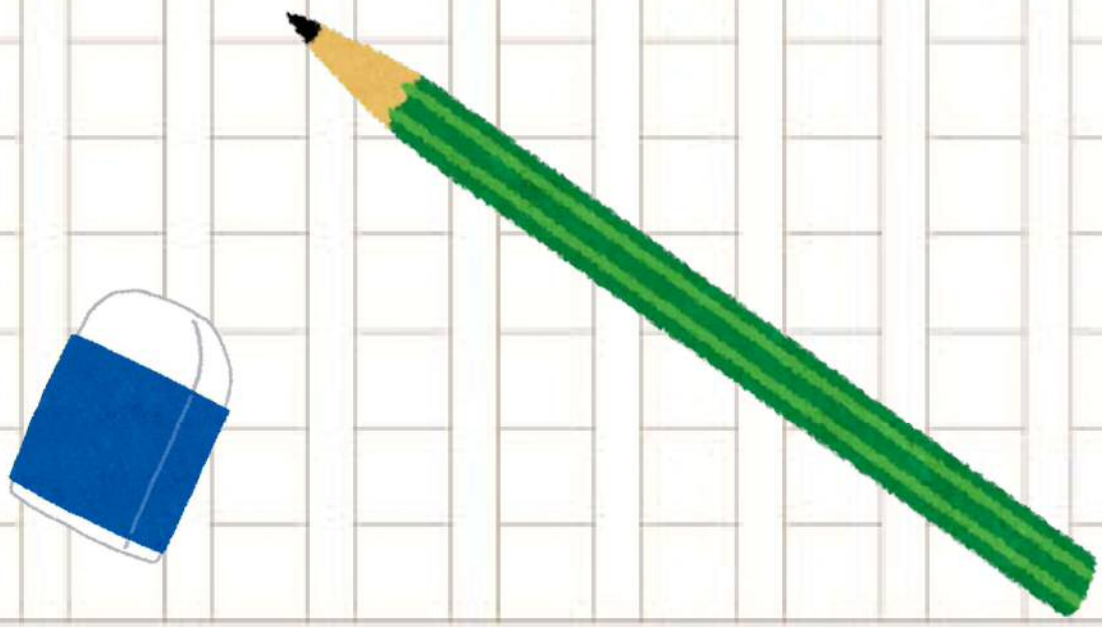
僕のサッカーが出来る姿が見れて親もすごく喜んでくれました。

成長痛と僕は、上手に向かい合うことでストレッチが、いかに大切かと気づくことができて、ストレッチをして柔軟性の身体づくりをすることによって怪我をしない身体をつくるということを知ることができました。

今後、僕がサッカーを続けていく限り、ストレッチをし続けていく大切な時期だったと今は思えています。今後も、自分自身の身体のバランスなどをケアしながら大好きなサッカーを全力で楽しんでいこうと思います。

入

選



委員会の楽しさ

青木中央小学校　五年　鈴木　智敬

「ありがとう」

と、聞こえる気がする。野菜がしゃべっているように聞こえるのは、ぼくだけだろうか。ぼくは今、園芸委員会の仕事、水やりをしている。

周りの先ぱいは、委員会の仕事をきらっていた。「面白くない」「楽しくない」と。ぼくは委員会に入るのが不安になった。だがそれは、ぼくの考えすぎだった。委員会はとても楽しかった。初めての体験もたくさんした。種やなえの植え付け、水やり、しゅうかくなど、自然とふれあう楽しさを知った。野菜を持ち帰ると、家族の喜ぶ顔が見れる。「委員会は、とても楽しいんだ」と心から思った。けれど、野菜を育てるのは、よいことばかりは続かなかった。抜いても抜いても生えてくる雑草、すぐに干からびる土。最初はとてもつらかった。だが、何回もその光景を見ていると、それがほほえましい光景になっていたのだ。野菜が元気に育っているしょうこなのだから。そう思うと、とてもうれしくなった。今まで何種類の野菜をみんなと一緒に育ててきただろう。ピーマン、トマト、ブロッコリーなど十種類は育ててきた。それぞれの野菜はそれぞれの特ちょうをもっている。まるで人のように。やっぱり委員会は最高だ。園芸委員会に入ってよかった、と心からよろこんだ。

気が付けば十一月。ぼくたちが一生懸命育てたブロッコリーが給食にでる日だ。ブロッコリーの入ったみそ汁には、他にもたくさんの野菜が入っていた。この教室の中にも何人かはみそ汁を残してしまった人もいた。けれども、ほとんどの人が、「美味しい」と言ってくれました。園芸委員会の本当のやりがいはこれなんだと感じました。今までは野菜に水をあげたり、しゅうかくすることが、園芸委員会の楽しみとやりがいだと思っていた。だが、「野菜を育てる楽しさ」と「育てた野菜を食べてもらううれしさ」の二つのやりがいがあることを初めて知った。このころ、ぼくの心の中では委員会が「面白くない」から「とても楽しい」に変わっていることに気づいた。必ずしも野菜が育つわけでもない。その野菜を必ず食べてもらえる

わけでもない。でも、いつか食べてもらえるときに、みんなに「美味しい」と言ってもらえるように、今も野菜の声を聞きながら、みんなで野菜を育てています。

学校の楽しいところ

安行小学校　四年　小久保　波那

私の学校には、エコクラブと言う、自然を大切に思う心や地いきのかんきょうを守る活動をするクラブがあります。学生さんなら、だれでも参加できるので、私も入っています。

米づくりをすることになりました。学校には田んぼがないので田んぼ作りからです。長ぐつをはいて、土をほるのは、大変でした。

初めての田植えもやりました。はだしで田んぼに入ったら、足がぬけなくなって、転んだりもしたけど、楽しいです。いねかり、だっこくと、全部やりました。楽しいけどつかれました。せい米をして、おにぎりにして食べたらおいしくて、たくさん食べました。

お米が食べられるようになるまでとても長い時間がかかるし、台風が来たりすると心配になるし、すごく大変なんだと思いました。

次にカイコです。カイコは、白くてつるつるしていてかわいい虫です。

初めて見た時は「これ何、白い虫？」と思いましたが先生に「カイコと言う虫だよ。」と言われて、気になってので家で育ててみる事にしました。

一年生の時、初めてみたお母さんは「かわいくないよ。」と少しイヤがっていました。でも毎日、クワの葉をあげて、部屋のおそうじを二人でしていたら、いつの間にか、クワの葉を食べるすがたを「かわいいネ。」と見る事ができました。

マユ玉が出来るのはふしぎでした。女の子は黄色、男の子は白色のマユ玉を作ります。軽いけど、とてもかたいです。

今年はマユ玉の先が気になって育てる事にしました。白くて、飛べないカイコがになりました。さんらんまで見る事ができて、とてもうれしいです。カイコは毎年育てていて、家族の楽しみになっています。

私の学校では、動物をたくさん育てています。例えばヤギ三匹います。

いつも休み時間に人参やキャベツをあげたり、さわったりする事ができます。

六月九日は、日曜日だけどエコクラブがあって

学校に行きました。その日はハチの巣からハチミツを取る体験をしました。帰る時、先生がみんなに「ヤギが産まれたよ。」と言っているので見に行くと、産まれたばかりの子ヤギが二匹、いっしょに丸まっていました。

二匹共、全然動かなくて、心配でした。お母さんヤギが、顔や体をペロペロなめると、立とうと二匹共、動きだしました。

私は「がんばれ」と思いました。

立ち上がって歩いた時は、まわりのみんなと「やったね」とうれしくなりました。

今は、元気に育っています。だっこする事もできるので、とってもかわいいです。

勉強では、学べない体験がたくさんできるので、私は学校が楽しいです。

今がんばっているトロンボーン

安行小学校　四年　髙山　結生

わたしは今、器楽クラブでトロンボーンをがんばっています。トロンボーンをやろうと思ったきっかけは、今中学生の姉がいます。姉は六年生のときに、同じ器楽クラブでトランペットをやっていました。わたしも、クラブに入れる学年になったので、あこがれていた器楽クラブに入りました。でも、姉と全て同じでは、まねしているようではずかしかったので、わたしはトロンボーンがやりたい！と思っていました。

どうしても、トロンボーンをやりたいわたしは、楽器が決定する前に休み時間に何度も音楽室にかよい練習しました。

トロンボーンは、トランペットとはちがい音がひくい楽器です。

初めてトロンボーンを持ったときの感想は、「こんなに重たいんだ。」と、びっくりしました。

トロンボーンは、のびたり、ちぢんだり二本の管を動かして音を出します。管は「スライド管」といいます。動かすポジションで、音階がかわります。

まずは、トロンボーンをふくには、マウスピースで音を出せるようにならないといけません。

そこで姉にマウスピースのふき方を教えてもらいましたが、さい初は、なかなかうまくいかなかったので、たくさん練習しました。

音が出たときはとてもうれしくて、練習が楽しくなりました。

十月六日に安行地区の運動会で入場曲をえんそうすることになっています。

えんそう曲は、ファンファーレ、ドラムマーチ、ミッキーマウスマーチ、でしたが、この前、先生が「みんなが上手だから、曲をふやしましょう。」と言ってくれました。

新しい曲は、「となりのトトロ」をえんそうします。わたしはとても楽しみです。

夏休みに入って一週間は朝早くから練習に行きました。とても暑かったです。

練習では、金管楽器とたいこなどべつべつの教室で練習したり、みんなで曲を合わせたりしまし

た。

ファンファーレがわたしは苦手で、はいりがとてもむずかしいので、これからたくさん練習しないといけないのでがんばろうと思います。

新しい曲もあるのでたいへんだけどとても楽しいです。

今は、トロンボーンの重さも、大きさにもなれてきて、あのときよりも成長したなぁと自分でも思います。

十月までの練習もがんばりたいです。そして、本番も楽しみながらがんばりたいです。

憧れを忘れない

川口市立高校附属中学校
二年　尾茂田　葵

私は今、将来のために憧れの気持ちを忘れず、日々努力している。「将来、どんな職業に就きたいですか？」昔はこの質問が少し怖かった。何かに強い憧れがあったわけではなく、この質問に答えられないことによって、自分の将来が閉ざされ一生暗い道を迷いながら生きていく感じがしてしまったからだ。しかし、小学二年生のとき転機が訪れた。私は家族と五人でイタリア旅行に行った。見たことのない建造物が並び、とても一人では食べきれない量の料理が運ばれ、聞いたことのない言葉が飛び交っていたあの空間は、当時の私にとって異世界のようなものだった。家族の誰もイタリア語が話せず、水一つを買うのにも苦戦していた。そんな中で、一人の女性に出会った。それは、私たちのツアーガイドをしてくれていた西尾さんだった。小さかった私は美術館を見て回るとき、最前にいる彼女の後ろを着いて行っていた。彼女が現地の人々と流暢にコミュニケーションをとり、日本語で私たちに説明をしてくれたときは大きな安心感のようなものがあった。その姿はとてもかっこよく、私は「西尾さんのような人になりたい」と思った。「将来、どんな職業に就きたいか」という質問に一言で答えられるわけではなかったが、憧れの姿を見つけることができた。帰国後、一番に母に頼んで外国語の本を買ってもらった。語学に関して興味津々になっていた私はワクワクしながら本を読もうとしたが、それは想像と違かった。全く理解できなかったのである。覚えることはとてつもなく多く、発音もお手本のようには全くいかなかった。私は自分と西尾さんとの距離の遠さを痛感し、やるせない気持ちになった。それでも諦めたくなかった。憧れの気持ちを無くしたくなかった。それから、学校の図書館で語学に関する本を借りて、毎日地道に勉強を続けていった。理解できない自分に腹が立ったり、悔しくて涙をながしたりもした。日々の努力を続けているうちに私はいつのまにか中学生になっていた。通っている中学校はＣＩＲ（国際交流員）の方々が十名いたり、英語の体験活動が豊富であったりと、語学

を楽しく学べた。中学に入って、一層英語の内容は難しくなったが、小学校時代の自主学習のおかげで苦戦することはなく、テストでも常に上位に入ることができた。

私は今、小学二年生のときの自分に「憧れをもってくれてありがとう」、「挫折しても諦めないでいてくれてありがとう」と伝えたい。また、未来の自分が今の私に「ありがとう」と言えるように、将来に貢献していこうと思った。

この世界にいる誰しもが、「憧れ」をもっているだろう。それを諦めてしまうのは切なく、もったいないことだ。どうか、自分がなりたいと思ったその姿を諦めず、努力してみてほしい。例え努力が報われなかったとしても、それはなんらかの形であなたの未来にいかされている。

将来のために憧れを忘れず、ひたむきに生きていこう。また今度は自分が誰かの憧れになれるよう、胸を張って生きていこう。

強い人になりたい

川口市立高校附属中学校
二年　佐川　実胡

私は、強い人になりたい。将来就きたい職業は決まっていないが、どんな人生を歩んだとしても芯をもった強い大人になりたい。

強い人とは、本当の自分を見極める方法を知っていて、自分や他人の価値観を否定しない人だと思う。自分が本当にしたいことを知っていて、それをつき通す覚悟があり、人それぞれ異なる価値観を否定しない寛容な心をもつことは難しい。

私が強い人になりたいと思った理由は、自分が弱いことを自覚したからだ。私は意志が弱く、今まで中途半端に生きてきたと思う。自分がしたいことや挑戦してみたいことがわからず、何かに打ちこんでいる人をみて嫉妬の感情をもってしまう。また、人の意見を素直に聞くことができず、自分の意見や考えが全てだと思ってしまう。

実際、私のような大人は多くいると思う。生きることに情熱をもたずに他者を侮辱することに時間を使う人や、自分の考え以外は認めずに人にその考えを押し付ける人。そんなつまらない大人にはなりたくない。自分を変えるために今、頑張っていることがある。

一つ目は、様々な価値観に触れることだ。人それぞれ感じることや考えることは全く違うと思う。だからこそ、様々な価値観に触れて、自分自身の価値観を広げていきたいと思った。そのために、読書をするようにしている。元々幼いころから本を読む習慣はあったけれど、登場人物の考えや価値観を深く読み取ることはしてきていない。色々な人の考えや価値観を知るには読書が一番手っ取り早いと思った。自分にとって読書は労力を使うものだけれど、自分の知らなかった世界を知ることができて面白い。本は価値観だけでなく自分の知らなかった世界や生き方を知ることができると私は思う。

また、ＳＮＳをたくさんみるようにしている。ＳＮＳは、同じ時間を生きている人達のリアルな生活を知ることができる。その生活から感じることができる。それぞれの大切にしている考えが伝わってくる。私はＳＮＳが大好きだが、ただみる

だけでなく、様々な価値観に触れることができるように広い視野をもって楽しみたいなと思う。そして、ＳＮＳは他人が夢中になっていることを知ることができる。やってみたいことや挑戦してみたいことを探すために、色々なコンテンツをこれからもみていきたい。

二つ目は、自分にとっての幸せを探すことだ。長い人生を生きていくうえで幸せを感じることはとても大切だと思う。自分にとっての幸せを知っていれば、日々を生き抜くことに疲れた時、心の支えになる。余裕のある人は自分にたまった毒をとりだす方法を知っていて、だからこそ強くなれるんだと私は考える。そのために、日々の生活を大切にするようにしている。大切に生活することを意識してみると、日常の中にある小さな幸せに気づくことができる。私はその小さな幸せに気づくことができるほどの余裕がないので、まだまだだと感じることは多い。自分にとっての幸せを見つけることができるように時間をかけて探していきたい。

強い人になるには、自分には足りないものがたくさんある。でも、自分ならきっとなれると信じて、これからも精一杯生きていきたい。そして、強くなった自分で一度しかない人生を楽しみたい。

人々の幸せのために

青木中学校　三年　西原　花音

私の住んでいる埼玉県川口市は、「本当に住みやすい街大賞」で二〇二〇年と二〇二一年の二年連続で一位を獲得しました。当時、私は小学生でしたが、そのニュースをテレビで見てとてもうれしい気持ちになったことを今でも覚えています。このランキングについて調べてみると、住環境、交通の利便性、教育・文化環境、発展性、コストパフォーマンスの五つの観点から審査されていることがわかりました。この結果から、多くの人々が、安全性や交通の便の良さ、子育てのしやすさなどを重視しているのだと感じました。

住みやすい街とはどんな街なのでしょうか。私が考える住みやすい街とは、子供から高齢者、障害者、外国人など誰もが幸せに暮らせる街です。このような街であるためには、一人一人がそれぞれの立場の人々について詳しく知り、理解する必要があると思います。しかし、私は、祖父母とも離れて暮らしているため、高齢者と接する機会も多くありません。また、色々な障害を持つ人たちともほとんど関わったことがありません。私の母は、小・中学校の時、同じクラスや学校に障害を持つ生徒がいたそうです。そして、その生徒たちについて深く知ることで、お互いを理解し合えるようになったそうです。母は、中学時代に覚えた指文字を今でも忘れてはいないと話していました。このように、実際に様々な立場の人たちと触れ合うことは、とても大切だと実感しました。なので、地域の中で、色々な人たちと触れ合える機会が持てる場所があれば、お互いを知るきっかけになり、住みやすい街づくりにつながると感じました。

また、高齢者にとって住みやすい街にするためには、交通網の整備が必要だと思います。最近、高齢者のドライバーによる交通事故のニュースを良く見かけます。これらの人々の中には、駅から離れた所に住んでいて、お店や病院にいくためには車を利用するしかないという人たちもいます。このような人たちにとって一番便利なものがバスだと思います。今は路線も増えている地域も多いとは思いますが、この場所までバスがあれば行けるのになと私も感じたことがあります。また、バ

スの路線がもっと拡充すれば、私たち世代の人たちも、交通の便の悪さから今まで行ったことのなかった場所へ行くことができ、自分たちの住む街のまだ知らない魅力も発見することができるかもしれません。このようなことから、交通網の整備により、高齢者だけではなくあらゆる世代の人たちにとっての住みやすい街へと近づくことができると感じました。

最近では、あらゆる場所で、手すりを設置した場所や段差のない場所など、様々な人に配慮した場所が増えていると思います。また、いろいろな場面で外国語の表記も見かけるようになり、外国の人への心配りも感じます。

しかし、誰もが幸せに暮らせる街になるためには、一人一人がより良くしていくための心がけや思いやりを持つことが大切だと思います。住みやすい街は、一人ではつくることはできません。その街に住むみんながさらなる発展を目指して少しずつ行動していくことが、住みやすい街へとつながっていくのだと私は思います。だから、私もその街に住む一人として、今の自分には何ができるかを考えて、毎日を過ごしていきたいと思います。

そして、いつか、今住んでいる街が私の考える住みやすい街になることを願っています。

他の国の人と仲良くするために

青木中学校　一年　椙木　彩琶

私の住む街川口市では、年々外国人が増えてきています。二〇二四年五月現在、外国人の人数と割合は約四万人で総人口の約七・三パーセントをしめています。国籍別に見ると一番多いのが中国人。次にベトナム、フィリピン、韓国、朝鮮、ネパール、トルコと様々な国の人が川口市に住んでいます。私の家の近所や学校にも外国人を見ることが多くなってきました。

そんな私の街、川口市ですが私たちにとって住みやすい街なのかを考えてみたとき、決して住みやすい街とは言いきれないと思いました。なぜなら、日本語がわからない外国人の方とだと互いに気を使ってしまう上に、外国の方がルールを知らなかったりするからです。だからこそ、どうしたら住みやすい街になるのかを考えてみました。

「外国人はルールを守らない」という話をよく耳にしますが、それは本当に外国人だけがいけないのでしょうか。ルールを知らないし、注意書きを見ても日本語が読めない、そもそも習慣がちがうからだと思います。

外国人も日本人も住みやすい街にするための改善策を私なりに二つ考えました。

市内に住んでいる祖母の話です。祖母の家の前のゴミ捨て場では、ゴミのルールが守られていませんでした。引越してきた多くの外国人がルールを分かっていない上に日本語が読めないからだと思いました。そこで、祖母が彼らの国の言葉でゴミ捨てのルールを知らせるポスターを作り、ゴミ捨て場に掲示しました。その結果ルールもしっかりと守られ、とても改善されたようです。今回の件で私が思ったことは、日本が直接でなくてもよいので、日本の習慣を外国人に教えてあげるということが大切なのだということです。

二つ目は、学校の話です。現在学校にもたくさんの外国人がいます。日本語が話せる子は日本人との交流が多く見られます。けれど、日本語があまり話せない子はどうしても同じ国の友達とばかり交流してしまうことが多く感じます。日本人との交流を増やすには、まず、お互いのことをよく知り、人数の多い日本人の子が積極的に話しかけ

ることが大切です。そのためには、私たちが他言語を学ぶ機会をもっと増やすべきだと思いました。また、私が他言語を学ぶことも必要ですが、外国人に日本語を教える機会をもっとたくさん増やすことも大切だと思います。学校で日本語教室がありますが、日本人の生徒が外国人の生徒に日本語を教える機会があってもおもしろいだろうなと思います。

外国人が増えてきている中で、住みやすい街にするためには、日本人からでも積極的に外国人に歩み寄るよることが大切です。自分の国の文化や習慣に誇りをもって、それを外国人に一生懸命伝えることも必要だと思います。

そして、住みやすい街とは、みんながルールを守り、安心して暮らせるような街のことだと思うので私の住む川口市もそういう街になってほしいと思いました。

「私の街をこれからも」

南中学校　二年　髙橋　夏絆

私の住む埼玉県川口市は、都心に近く商業施設が充実していてとても過ごしやすい町です。それだけではなく、開放感のある荒川の土手や、様々な植物を観察できるグリーンセンターなどがあり、自然を感じられる素敵な街です。

この先ずっとお世話になるこの街ですが、どうすれば未来でも現在のようにみんなから愛されている街になるかな、と最近思うようになりました。愛される街とは、今住んでいる人や、初めて訪れる人全員が安心して暮らせる住みやすい街だと本で見たことがあります。変化し続ける社会の中、今よりもっと住みやすい街にはどんなことが必要か、それはどんな街なのかを考えてみようと思います。

まず、一つ目は「都市と自然の共生」という点です。年々、多くの街で都市化が進んでいますが、それに伴って自然も減ってしまっている場合もあります。自然の中にいれば安らぎを感じれて、街の中に花や木を植えればもっと街が華やかになります。私たちの心を豊かにしてくれる自然こそが街の住みやすさにつながるのではないかなと思います。ただ、自然は人の心を豊かにしてくれるため、単純な町の住みやすさは変わらないと思います。都市化が進むことで、住居が増え人口が増え、働く人も増え経済が回るため、街の発展につながります。人口が増えれば人々の交流も増えるのでそれもまた住みやすい街になります。つまり、都会と自然の調和がとれていることが住みやすい街に必要なのだと思います。

二つ目は、「街の歴史を大切にする」です。例えばとても住みやすい街があったとします。思い切り体を動かせる自然豊かな公園があり、ショッピングモールや商店街があり、たくさんの人が住んでいても街の歴史や文化を知らない人が多かったらどう思いますか。私は少し寂しい街だなと思います。たしかに歴史や文化を大切にすることが住みやすさに直結することはないと思います。ですが、昔から代々受けつがれてきた物が段々薄れていくことは悲しいです。また、自分たちの街にはこれがあって誇りですというものがあればもっと

街がにぎやかになると思います。

自分たちの街の歴史や文化を全く大切にしない街はほとんどないと思いますが、もっともっと色々な方法で街に浸透させれば住人でいる人全員が誇りに思えて大切にし、後世へ伝えていく活気のある住みやすい街になるのではないかなと思います。

最後に三つ目です。「地域の人みんなが楽しく交流できる」ということが大切だと思います。「交流」することはお祭りだったり、ボランティアなどに参加することでできますが、それだけでなく、あいさつも一つの交流だと思います。家族に朝、いつもしているあいさつですが、他と違い最も簡単に多くの人と関わることができる大切なものだと考えています。朝は「おはようございます」という声が聞こえ、街の人々が協力してゴミ拾いをして常に綺麗で、商店街でお祭りが行われてとてもにぎやかな街。こんな街だったら誰もが住みたくなるでしょう。つまり、地域の人同士の深い関わりがずっと住み続けたいと思える街をつくるということです。

なので、「地域の人みんなが楽しく交流できる」ということが住みやすさに繋がるのだと思います。

今まで住みやすい街とはどんな街かを考えてみましたが、川口市はこの三つのすべてを達成できてると思います。自然があり、活気もある、そんな川口市を本当に誇りをもっています。これからもこの街に住み続けたいです。

また、この先ずっと今のような最高な街のままであるようにもっと川口市を盛り上げていきたいです。

住みやすい街とはどんな街か

安行中学校　一年　山口　華凛

私は住みやすい街とはどんな街なんだろうと時々考える事があります。私が今住んでいる所は、緑豊かですごく落ちついた心がリラックス出来る場所だと思っています。そのような中で色々な場所、環境、近所の人、日常の生活の中で様々な生活があるんだろうなーって感じています。

たとえば、今の私にはまだあまり理解出来ていませんが、日本だけでなく外国などでは色々な戦争などがあり、何のつみもない人々や子ども達もその日の生活、食べ物も飲み物もない中、死んでいってしまっていると、たまにテレビなどで見ます。このような事を知ると、とても悲しい気持ちになるし、どうしてその街から逃げないのかと不思議に思うときがあります。色々とじじょうは有ると思いますが、そこの街に住む人たちにとってはやはりその街から逃げたくても逃げられないじじょうがあるんだろうなと思っています。私だったらそのような街には住めないし、毎日が、こわくてこわくてしかたないと思います。だからこそ本当に世界は平和でないとダメなんだと強く思います。

さて、今現在の日本であらためて住みやすい街とはどんな街なんだろう？と考えた場合どんな街なのかと言われるとすぐには答えられないかも知れません。今の時代はすごくその人によってかち感もちがうと思いますし、一人一人が色々な意見があると思います。でも私自身が住みやすい街とは？と考えた場合やっぱり平和で安全と言う事です。今の時代色々な事件や事故があります。毎日学校などに行く時にビクビクしながら行きたくないですし、外に遊びに行くときでも元気に出かけたりしたいからです。前にも書きましたが、それが当たり前と思うのではなく、すごく私は幸せなんだと思いながら生活したいと思っています。

次にまわりの人たちがみんな笑顔で元気があると言う事です。やっぱり生活していると色々な人がいると思いますし、それぞれにさまざまな事があると思います。かんたんには言えないのかもしれませんが、だれかがこまっていたり、元気がない時には、おうえんしたいと思いますし、元気に

なってほしいと思います。みんなが笑顔で元気でいればきっとまわりの人たちも笑顔で元気よく楽しくできると思うからです。

そして、街全体がきれいで静かに親しき仲でも礼ぎありと言う事です。やはり、ごちゃごちゃ街がきたなければ、衛生面でもそうですし、心もきたなくなってしまうと思います。また、がやがやうるさいとおちついた生活もできないと思いますし、安心して休めないと思います。ただそのような中であっても、しっかりとあいさつや声がけは大事だと思うからです。

私にとって住みやすい街とは、私が大人になってもいつでも帰って来たい街の事だと思います。そのために今私達が何ができるのか何をすれば住みやすい街になるのかをしっかりと考えて、一人一人が少しでも協力しあってがんばる事が大切だと思います。

住みやすい街とはどんな街かは人それぞれだと思いますが、安全、平和でみんなが笑顔で元気よく助けあえる街が私には街として住みやすいと思います。

「住みやすい街」とはボランティアを通して

西中学校　一年　吉田　晴哉

住みやすい街とはどんな街か地域ボランティアを通して考えてみました。

ぼくは、月に一回町会で公園の清掃を父と一緒にやっています。主に衛生部がやっています。また、二か月に一回資源回収もやっています。そして、公園に落ちている枯れ葉をほうきを使ってはいたり、雑草を鎌を使ってとったり、ふるいを使って砂を落として、ビニール袋に入れて入口付近にあるごみ集積所に集めます。そして、参加者のほとんどが高齢者ばかりです。

そのような中に一人とても気になる方がいました。とてもやさしい人で、掃除の仕方を教えてくれました。街中で会えばあいさつしたり、話しかけたりしてくれて、僕にとってはおじいちゃんのようでした。そんな人も三月の公園掃除で会った、数週間後に亡くなってしまいました。とても悲しく残念です。

さて、話をもとに戻します。最近はタバコやペットボトル、アルコールの缶のゴミがとても多く落ちています。非常識な大人がとても多くてこまっています。僕はそんな大人になりたくないと思いました。そして、主に衛生部がやっていますが、中には地域の人も参加してくれています。

次に資源回収です。資源回収では、段ボール、雑誌、新聞紙、ボロ（古い衣服など）を回収しています。また、新聞紙の出し方にはそれぞれ家庭ごとによって、ちがいしっかりとひもでまとめてくれる家庭もあれば、まとめないで袋に入れる家庭もあります。そして、ひもでしっかりとまとめてくれない家庭は、資源回収業者に渡す時にばらばらになってしまいその後、ばらばらになったのをまとめるのがとても大変です。そのため、しっかりと新聞紙や雑誌は、まとめていただきたいと思いました。

これからも、資源回収には、多くの人に参加してほしいと思いました。また、しっかりまとめてほしいです。

次はごみの出し方についてです。最近、ごみの出し方が非常に雑だったり、ごみを出す日を守らない人がとても多くなっているため、これから、

ごみの出し方について書いていきます。

うちの地域は、毎週火曜日、金曜日が、一般ごみ、有害ごみ収集日で、毎週水曜日はプラスチック製容器収集日で、（第一・三火曜日）はびん、飲料かん収集日で、（第二・四火曜日はペットボトル・繊維類収集日で（第二・四水曜日）は紙類・金属類・缶詰収集日です。

このように、地域ごとに決まっているのでしっかり守ってごみを出しましょう。

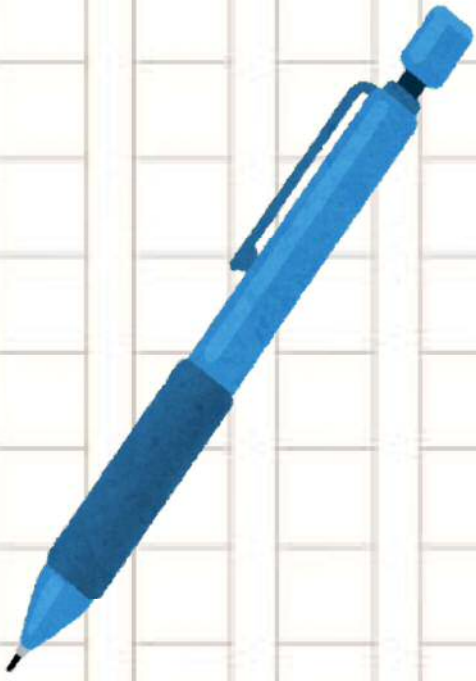
また、自分が出しに行くゴミステーションは、しっかりと守られているけれども、となりのゴミステーションは常にごみがある状態でまさに、ごみがごみを呼んでいるようです。そうするとごみのせいで街がとてもきたなくなってしまいます。

決められた日にごみを出すことが守られれば街はきれいに保たれます。もし間違ってごみを出してしまった人がいたら、気付いた人が声をかけてあげることでまた、きれいに保たれます。こうした取り組みが普通に行われる街になるといいと思います。

以上公園清掃、資源回収、ごみの出し方について書いてきました。これらに共通することは、特定の人だけが参加したり、ルールを守るだけでは街全体がきれいになったり、良くなったりはしません。やはり、地域の多くの人がかかわることで本当に良くなり、住みやすい街になるのではないのでしょうか？

佳

作



ＭＬＢ全国大会

辻小学校　四年　樋地　春來

ぼくは今野球をがんばっています。三月に今までのチームをやめ四月にリトルリーグに入団しました。ぼくはこのチームに入ってしばらくはみんなに体力がおいつかず熱を出していました。でも少しでもなれようとしてがんばりました。実力でもなかなかおいつきませんでしたが毎日わすれずすぶりをしたり、少し体調が悪くてもあきらめず練習に行きがんばりました。そしてだんだんみんなのペースになれて、試合にも少しずつ出場できるようなりました。

そして五月の北関東の大会にむけ更に練習をがんばりました。四年生は五年生と同じカテゴリーで五年生とやるさい後の大会でした。そして見ごと優勝し全国大会へ出場できるようになりました。全国大会は七月に石巻です。そこはこのカテゴリーのみんなが目指しているとても大きな大会です。そして当日朝早くバスで出発しました。ぼくはバスの中からきんちょうしていました。五時間かけてとう着し、そこはとてもきれいな大きな球場でした。この球場でできるうれしさや、大きな球場にわくわくしました。

一回戦にベンチでしたが、たくさん声を出してベンチでの仕事をがんばりました。そして勝利し、二回戦は八番レフトで出場しツーベースヒット、シングルヒットを打つことができました。その時打席では打ってやるという強い気持ちだったので打てたのだと思っています。チームは勝利し準決勝に進出しました。そして準決勝も八番レフトで使ってもらいました。しかし相手も準決勝まで来るチームなので負けてしまい三位という結果に終わりました。ぼくはすごくすごく、くやしくてかなしかったです。でもかんとくがみんなをはげましてくれてすこし気が楽になりました。そしてぼくはこのくやしさをむねに四年生として新たに三年生を引っぱって五年生のようになっていきたいです。

そして新チームの活動がはじまりました。ぼくは三年生を引っぱりながらＭＬＢで見つけた課題の走塁、守備を中心に練習をし、今も自主練習で

はすぶりを忘れずシャドウピッチングを取りいれたりしてがんばっています。一年後のＭＬＢでは五年生のレベルをこえ野球をもっと知ってもっと成長してＭＬＢに出場したいです。
あとぼくは身長もたくさんのばし、体も大きくしたいので食事をしっかりとれるようにしていきたいです。

今がんばっていること

安行小学校　四年　髙木　陸乃斗

ぼくが今、一番がんばっていることはゲームのプログラミングです。大学生のお兄ちゃんがプログラミングをしていてすごいなぁと思って、ぼくにもできないかなと思ったのがきっかけです。

まずどんなゲームを作ろうかまよったけれど、色んな人が作ったゲームをさん考にして、たくさんの種類を組み合わせたゲームを作ることに決めました。でも何の機能をつけるか、どうしたら色んな人と遊べるか、コミュニケーションをどうやったらとれるかを考えるのがむずかしかったです。

工夫したことは、プレイする人達が自分の体力がどのくらいあるかを分かるようにしたり、通常より戦いやすくする二段ジャンプを加えたりと、プレイする人にとって、うれしい機能を作った事です。ファーストステージの全体マップはさい初の一日で作れました。セカンドステージ以こうもデザインやぶ器、てきの体力を変えながら、楽しいステージを作りたいとがんばっています。

分からないことやむずかしいことはお兄ちゃんに聞いたり、インターネットで調べたりして、かいけつしながらゲームを作りました。パソコン二台でお兄ちゃんと共同作業をしているので、自分にはむずかしすぎてできないところは、お兄ちゃんにまかせて、ぼくはほかの機能を付けるなどして作りました。

作りながら分かったことは、ゲームにはいろいろな機能があり、プログラムにはたくさんのコードがあることです。アクションボタンを画面に設定するなどのコード入力が楽しくてやり続けるほど面白いなと思いました。

このゲームはぶ器を探してゲーム内にいる人たちと戦うゲームで、き本的にはソード（けん）ガン（けんじゅう）で戦うのでタイトルはソードガンバトルグラウンドにしました。自分で点数をつけるとしたらまだ開発中で完成度も低いから六十五点ぐらいだと思います。次に作るとしたらこのゲームをもっと進化させて、いろんな人がプレイして、楽しくて面白いと、思ってくれるものが作れたらいいと思います。

お兄ちゃんが「世の中に出回っているクオリティの高い有名なゲームは、ふ通だとふく数人で分担して作っている。一人や二人でマネして作るのはむずかしいからもっとかん単なゲームにしようよ」と言っていて、自分もたしかにそうだと思いました。でも、頭の中にアイデアがまだまだうかんでいるので、お兄ちゃんとあきらめずにこれからもがんばっていきたいと思います。

今までは、お兄ちゃんが学校やバイトでいそがしかったから、あまり話せなかったけど、プログラミングをきっかけに夏休み中にたくさん話すことができてうれしかったです。最高の夏休みをすごせました。

「五年生に入っての委員会活動」

青木中央小学校　五年　鈴木　杏璃

五時間目の終わりのチャイムが鳴りました。今日はクラスが楽しみにしている。委員会活動の日です。今までわたしは四年生でクラブ活動などを楽しんでいました。ですが五年生に入って自分だけがではなくみんなのために委員会をするという人のためになる事を五年生ですることになりました。

わたしはもともと一年生のころから動物が大好きなので飼育委員会に入りました。

飼育委員会の主な仕事は、うさぎ小屋のそうじやえさやりかめの水そうそうじ、こいと金魚のえさやりです。生き物がいっぱいで楽しく、やりがいにあふれた仕事です。毎週飼育員会の友達と「〇〇さんは今日は水をやってわたしはそうじをするよ」など役わり分担をして、協力して仕事をしています。

飼育委員会をやっていくと自分のできないところが見つかりました。うさき小屋のかぎをしめるやり方があまりよく分かりませんでした。いつもは飼育委員会の友達がかぎをしめてくれるのですがその日はちがいました。その日は夏休みの中、みんなで集まって委員会をやるのですがもう一人の子が用事でわたし一人で委員会をやることになりました。その日は先生が一人いたのでかぎをしめてもらいましたが、もしも先生がいなかったらどうしようと思いました。

その時に、「こんなんで人の役に立っているのかな」と不安にも思いました。わたしは飼育委会でただ楽しんで活動しているだけで人のためにと思って活動していないと思い友達にかぎのしめ方を教わり上手にしめれるようになりました。

そして時どきこれであってるよねなど不安になる気持ちもありますが、朝に活動をしている時に会う校長先生やたくさんの先生方に毎回「おはようございます。朝もいそがしいのにいつもがんばってててえらいね。」と言われ毎回やるごとに今日もがんばるぞというやる気がいつもでてきます。

最近は、先生にいわれてやるだけではなく「今かめはおなかすいているかな」、「今うさぎのみら

いちゃんの小屋がきたないな」など、どうしたら動物たちが気持ちよくすごせるのかと進んで行動をできるようになってきました。

生き物が相手なので、やるたびに気がつくことがたくさんありますが、分からないことは先生や友達にきいて自分から見つけ進んで行動をしてもっともっと自から自分を成長させていきたいです。

将来のために今、していること

西中学校　二年　佐藤　百

皆さんは将来の夢はありますか？私にはあります。私の将来の夢は、消防士です。なぜかというと、去年の職業体験で消防署に行って、そう思うようになりました。でも、職業体験に行く前は、嫌だなとか、行きたくないなと思っていました。三日間職業体験に行って、後から思ったのは、行く前にもう少し勉強すればよかったなとか、かっこよかったなと思いました。その時から、自分に今できることを考えました。

まず、自分にできることを考えて、今年、町会の防災訓練に行きました。そこで、消火器の使い方や、煙の中での移動の仕方や、ＡＥＤの使い方を教えてもらいました。その中で、消防士さんが災害時に、重いものに挟まれた時の持ち上げ方を、実際にやってくれました。てこの原理で持ち上げていて、かっこいいなと思いました。防災訓練に、去年職業体験でお世話になった消防署の消防士さんが町会の防災訓練に来てくれました。その時に職業体験の時にやったＡＥＤの使い方をできるようになったところを見せられて良かったです。防災訓練が終わった後に話せる時間があって、

「職業体験の時より成長したね！」

と言われて、とても嬉しかったです。これからも防災訓練に参加していきたいなと思いました。次に自分にできることを考えた時に、救命講習を受けることにしました。救命講習では、応急手当の重要性や、心肺蘇生法、ＡＥＤの使い方を学ぶ講習です。そして、夏休みに講習に行って、実際に人形を使って、心肺蘇生法を学びました。胸の真ん中に両手を組んで手のひらの付け根部分を置いて、倒れている人に対して、垂直になるように圧迫すると教えてもらいました。一分間に百～百二十のスピードで押すということも教えてもらいました。ＡＥＤの使い方の動画を見て、やったので、スムーズにできました。救命講習に行って、知れたことで、ＡＥＤには大人用と子供用があり、子供には、大人用を使ってはいけないことを教えてもらいました。反対に大人に子供用を使っても、効果はないということも教えてもらいました。私は、子供用と大人用があるというのは知らなくて、救

命講習に行ったことで知れたので、よかったなと思いました。ほかにも食べ物が詰まった時の腹部突き上げ法や背部叩打法も教えてもらいました。最後に普通救命講習修了証と、認定証をもらって、すごく貴重な講習だったなと思いました。ほかにも上級救命講習や、小児救命講習があるので、また参加したいなと思いました。消防士になるために消防の歴史を知ったり、ＡＥＤのある場所を調べたり、自分にできることを一生懸命やっています。今は、自分にできることは限られているけれど、今できることを一生懸命やろうと思いました。

去年、職業体験で消防署に行って、実際にお仕事や訓練を体験させてもらって、すごくやりがいを感じる仕事だなと思いました。そして、今年防災訓練の時に、挟まっている人を助けるという訓練を実際に見て、かっこいいなと思いました。私も、あんな風に人を助けられるかっこいい人になりたいなと思いました。そのために今、防災訓練に行ったり、救命講習を受けたり、勉強したりすることを、一生懸命して、一歩でも将来の夢に近づけるように努力したいなと思いました。

まだ十四歳

南中学校　二年　栗矢　樹奈

私は夢を見つけて、本当に自分のやりたいことをするのが夢です。

小学校低学年や中学年のころ私はたくさんの夢をもっていました。例えばバレリーナやモデルなど、今考えると私にはとても難しいだろうなと感じるものばかり。年齢が上がってくるにつれ私は夢を失っていきました。

中学受験では失敗して、もっと勉強をしなければならないという思いが強まりました。そして夢というものが自分の中で私にはできないものだと考えていました。きらきらとした夢を描いてそれに向かって走っていくことより、ひたすらに勉強して安定した生活を送っていくことのほうが私にはあっていると思っていたからです。またきらきらとした夢に人生をかけて進んでいくことがとても怖かったです。

そんな私は中一の前半、正社員になりたいと言っていました。

中一の冬休み、私は同じ保育園の人の集まりに行きました。友達と、ある人のお父さんと話していた時、夢の話になってしまいました。その友達は水族館のスタッフになってイルカのお世話をしたいと語っていました。こんなにすてきな夢を話した後に私が話すのかと、とても後ろめたい気持ちになりました。私がしぶしぶ正社員になる、というと、夢ないの？と聞かれました。私にはきらきらとした夢は叶えられないというと、

「夢はもったほうがいいよ。抽象的でもいいからさ。まだ十三歳だよ？なんだってできるじゃん！」

と言われました。私はそのとき夢から逃げることで、何かを頑張ることから目をそらしていたのだと気づきました。

それから私は世の中にある仕事をたくさん調べました。そこで世の中の仕事の多さに驚きました。例えば、ダンサー。ダンサーは一番お客さんの目に見えるところで舞台を作り上げ、笑顔を届けています。しかしその舞台ができるまでに舞台監督の人、小道具を作る人、音響の人などたくさんの人が力を合わせています。仕事について調べたことで普段見えていないとこでもたくさんの人が働

き、頑張っているのだと知りました。
　私は仕事を調べていくうちに、人の見えないところで頑張っている人にとても憧れを抱き、かっこいいと思いました。そして、
「見えないところからでも人を笑顔にできる人になりたい」
と、考えるようになりました。
　私の学校では中学二年生になると水上に行き、キャンドルファイヤーで自分の将来の夢や理想像を語ります。そこで私は「見えないところからでも人を笑顔にできる人になりたい」と言いました。学校の先生にはあなたらしくていい夢だと思うよ、まだ中学二年生なんだから夢はゆっくり決めなよと言われ、自分のとても抽象的な夢でも先生に肯定してもらったことで自信がつきました。その先生から教師になったのは人が変わる瞬間が見たいからだと教えてもらいました。その先生は少し厳しいけどこの話を聞いて、確かに先生のおかげでたくさんの人が変わったし、たくさんの人が色々なことを学んでいると思いました。私もその中の一人です。このとき先生と話せてよかったと心から思いました。

　私は十四歳でまだまだ何も知らないし何もわかりません。何が起きるかもわかりません。しかし誰だってどんな夢を描いたっていいのです。今は夢に向かって必死に走っている人はとてもかっこいいと思います。私も夢を見つけて、本当に自分のやりたいことをして誰かを笑顔にしたり、誰かを変えたりできるくらい意味のある事をしたいです。そのためにたくさんのことを学んでたくさんのことを体験していつかなりたいものが決まった時に役立てられるように頑張りたいと思います。

受験生の私が頑張っていること

青木中学校　三年　八木沢　優里

私は今、およそ半年後に控えている高校入試に向けて、受験勉強を日々頑張っています。私は正直、勉強があまり好きではないし、中学一年生の五月頃から三年生の六月頃までのおよそ二年間は、毎日部活が忙しく、勉強と部活の両立ができていませんでした。

そんな私にもいよいよ毎日勉強と向き合う日々が始まりました。しかし、部活を引退してからの二週間は受験生の自覚が持てず、ダラダラと勉強から逃げて過ごしてしまっていました。ですが、次第に受験生の自覚と勉強を全くしていない自分への焦りが芽生え、今は毎日勉強と向き合えています。

ある日、私は模擬テストを受けることになりました。模擬テストを受けることは初めてではなかったのですが、やはりテスト特有の雰囲気には緊張しました。いざテストが始まったときのことです。問題を解いていくうちに答えが分からない問題とぶつかることは当然ですが、その分からない問題がどの教科もたくさんありました。テスト中、自信を持って解ける問題の方が少なかったので、私は、「どうしよう。絶対に解けるはずの問題が全然解けない。」と焦る気持ちでいっぱいになりました。名称をしっかりと暗記していれば正しく解答できた問題、何度も繰り返し書いて対策していれば正しく解答できた問題とたくさんぶつかりました。結局、どの教科も空欄と、当てずっぽうで書いた答えが目立つ解答用紙を提出して、その日の模擬テストは終わりました。模擬テストが終わって帰ってきた後、私は「もっとテスト対策をしておけば良かった。」と思いました。なぜなら、学校の同じクラスにいる人で同じく模擬テストを受けていた人は、模擬テストの一週間前くらいからスキマ時間に勉強をしていたからです。その人に比べて私は、受験生の自覚がなかなか持てずに二週間、勉強から逃げていたので後悔しました。後悔と同時に勉強していたか、していなかったかでこんなにも差が開くことを身を持って感じ、改めて入試の重みと受験勉強の大切さを知る事が出来ました。

模擬テストのおよそ二週間後、模擬テスト結果が返されました。結果には今回のテストの自分の点数、偏差値、志望校に行けそうかどうかが載っています。私は不安と絶望に押し潰されそうになりながら結果を見ました。想定内でしたが、結果はよくなかったですし、志望校が少し遠い存在になってしまいました。

模擬テストの結果は悪かったけれど、悪かったからこそ「次のテストは自分が満足いく良い結果にするぞ。」と気合を入れ直すことができました。

このような失敗を通して、ようやく今までの部活モードから切り変えて受験モードになれました。受験勉強を本格的に始めた模擬テストの直後の頃は、集中力が続かずにすぐスマートフォンを見たり、休憩したりしていました。それでも、一歩一歩前向きに日々頑張っていくうちに、少しずつ勉強に集中する時間も長くなっていき、また、課題をやり終えた時の達成感も味わう事ができています。

私は今、勉強、部活、友達との時間が充実している高校生活を送るために、そして志望校に合格するために残りのおよそ半年も受験勉強に頑張って向き合っていこうと思います。

成長するために頑張っていること

青木中学校　三年　佐藤　妃花哩

私が、将来大人になって一番大切な事は、人間関係が上手い事だと思っています。ですが、私は、人と関わるのが苦手で、人の前に立って何かをすることも苦手なので、克服したいと思っています。

私は、前期学級委員になりました。昨年から学級委員をやってみたかったのですが、人と関わるのが苦手ということもあり、今まで手を上げませんでした。ですが、三年生になって先生に「やってみない」と声をかけられやってみることにしました。私は、学級委員もほかの委員会も変わらないと思っていたのですが、責任感も、周りからの見られ方も、全然違う事がわかりました。クラスで何かあった時や、クラスで何かする時も、全部学級委員が前に出てやるので、人前に出て何かするということが少しずつなれてきて、克服する事ができました。けれど、周りからの見られ方が変わったことに対して、すごくストレスを感じてしまい、今まで以上に人と関わるのが嫌になってしまいました。ですが、私を否定する人もいるけれど、私の長所を見てくれる人がいるということに気づき、すごく自己否定だったのですが、少し前を向くことができました。そこから、クラスの人に声をかけたりして、人と関わる事が怖かったのが、楽しいと思えるようになれました。楽しいと思えるようになったのは、人と関わる中で相手のことを知ることができたからだと思います。相手を知れたことで、自分の思いを出すことができました。これは学級委員として人と関わることが多くなったことにより気づけたことです。

今回の経験から、人間関係を上手くすることが大切だと知り、そのためには、多くの人と関わることが重要だと感じだので、これからはクラス以外の人とも積極的に話し、色々な人とコミュニケーションをとっていきたいと思います。また、何かをすることは、その分、人との関わりが増えると思うので、学級委員は先生に声をかけてもらい始めましたが、これからは、自分から何かに挑戦してみたいと思いました。しかし、元々苦手部分である人との関わりが増えるのはストレスも増えてしまうのかと不安になります。私はよい意味で

も悪い意味でも、自分にたいする思いを真っすぐに受けてしまいます。相手が軽い気持ちで発言したことを、重く受けとめて悩んでしまうことも多々あります。これは、人の意見を聞き、取り入れて考えることができるという長所だと思っていますが、重く受けとめすぎて、ネガティブな考えになるのは、短所だと感じています。なので、私は重く受けとめすぎてしまうことをやめたいです。

私は将来の夢がまだ決まっていません。ですが、どんな夢でも人間関係は必要になると思います。人と関わる方法は、急に上手になることはないので、将来、何になりたいか決まった時に、自分がこまらないように今の内から苦手を克服し、少しずつでも成長していきたいです。

素敵な大人になるために

青木中学校　二年　鬼本　そら

私が今、将来のために頑張っていることは五つあります。一つ目は、常に笑顔でいることです。昔は友達や家族に「最近笑っている顔が見えない」だとか「悩み事でもあるの？」と言われていたことが多くありました。ですが、ここ最近は友達に「いつも笑っているね」「いつも楽しそうだね」と言われる事が多くなってきたと思いました。でも、私が最近、笑顔が増えてきているのは、私の周りにいる友達や家族が私を楽しませてくれたり、褒めてくれたりだとか、周りの環境も変わったからだと思います。私が笑っていると一緒にいる友達も笑顔になっていて、自分もうれしくなります。やっぱり人生、笑っている方が楽しいということが分かりました。今、私は友達に笑顔にしてもらっていることが多いのでこれからは、自分が落ち込んでいる人とかを笑顔にさせてあげられたらいいなと思いました。二つ目は「ありがとう」が言える人になるために、何かをしてもらった事に対して「ありがとう」を言っています。やっぱり感謝することは大事な事だし、礼儀の一つでもあるので、素直を口に出すことは大切なことだと思いました。感謝される側も、うれしい気持ちになるし、「ありがとう」という一言でお互い、うれしいし、良い気持ちになるので何かしてもらった時には「ありがとう」と言っていきたいし、逆に「ありがとう」と言ってもらえるような事もしていきたいです。三つ目は、ポジティブ思考です。私は結構ネガティブになってしまうことが多くて、ネガティブの方向にもっていっても何も良い事はなくネガティブになるにつれて、自分がもっと辛くなってしまうことを学び、家族にもポジティブに生きたほうが人生幸せと言われた時から私は、何事にもポジティブに考えようと思えるようになってきて、悩み事もなくなったりしてポジティブ思考になるだけで、毎日が楽しんで生活できるようになりました。例えば、部活で怒られてしまった時には「いいアドバイスをもらったな」と考える事を変えるだけで部活も楽しくなってきたのでポジティブ思考ってすごいなと思いました。何かあった時には一人でため込まず、ネガティブになる

のではなくポジティブにいきたいと思いました。四つ目は、自分が言った言葉に責任をもつことです。私は結構おしゃべりで、たまに相手を傷つけてしまうことがあります。そこから、余計な一言で相手を傷つけてしまうという事を学んで、自分が言った言葉には責任をもつようになりました。もしかしたら、その一言で自分の周りから友達が居なくなってしまったりすることもあるかもしれないので、今後は自分の言葉に責任をもって生活することを頑張っていきたいです。最後の五つ目は、周りに流されず自分をもち、自分を大切にする事です。私はたまに周りに流されてしまうことがあります。自分の意見をしっかりと言えなく周りについていってしまうことがあります。ですが、自分のやりたくない事は無理せずに自分の感情に嘘をつかないことが良いと思います。自分のやりたくない事には無理する必要はなく、自分の好きな事をやる事がいいと思いました。また、他人と自分を比べない事が大事だと思いました。周りの目や評価を気にしてしまうと、これこそ自分の欠点が見つかってしまうので、嫌な気持ちになってしまうかもしれないので、他人ではなく過去の自分と比べることに意識しています。やっぱり周りに大切な人が居たとしても自分が一番大切だと思います。人生、楽しい事だけじゃないと思います。その中には辛い事もあると思います。そんな時には、一人で抱え込むのではなくて、周りの人に相談したりして、自分を守る事が大切だと思います。なので私は、困まったりした時には友達に相談に乗ってもらい、なるべく一人で抱え込まずに生活しています。

あくまでも、自分の意見ですが、「完璧」な人間は居ないと思います。

私は、将来「完璧」な人間にはなれなくても、人を助けたり、自分を守ったりして、素敵な女性になりたいです。

将来のために頑張っていること

青木中学校　三年　亀田　ひな

私が将来のために今、頑張っていることは夢に向けて必要なことを意識して過ごすことです。

私の夢は看護師です。小学生のときにこの職業について調べると、知識だけではなく、それよりも大きく分けるとコミュニケーション力、思いやり、積極性の三つが大切になるということが分かりました。私は夢に少しでも近づけられるようにこれらのことを今、頑張っています。まず一つ目は、家族の団らんを楽しんだり、友達との直接の会話を増やすことです。これはコミュニケーション力を育むためです。最近、スマートフォンなどの情報化が進み、ティックトックやユーチューブを見てしまったり、ラインやインスタグラムでの会話が増えてしまったりしていて、人との関わりが少なくなっています。このことから、まずは身近な家族、それから友達との会話を増やし、楽しむことが大切だと考えます。二つ目は、姉弟の面倒を見ることです。私には今、小学五年生の妹と五才の弟がいます。この二人はよく、私を頼ってきます。例えば、妹は宿題を教えてほしいや弟はこの蓋を開けてほしいといったものです。たまに、私にはプラスにならないと思ってしまい、面倒になってしまうことがあります。しかし、手伝ってあげるだけでなく、勉強を教えるときも基本を自分も見直してみたり、蓋を開けてあげるときも、開け方をゆっくり教えてあげながらやってみたりと少し工夫して思いやりの心を身につけることが大切だと考えます。最後に三つ目は、家事を進んですることです。これは積極性を育むためです。小学生の頃は、家事というと皿洗いや洗濯物、服をたたんだり、お風呂を沸かしたりと大変で面倒だと思い込んでしまい、とてもやる気が出ませんでした。しかし、最近では家事がとても楽しく感じられるようになってきました。なぜなら自分の思考をプラスに変えたからです。家事イコール大変、つまらないではなく、家事をすることで自分に力がつくと考えるようになりました。中学三年生になってからは料理にも夢中になっていて、全品作るのはまだ無理でも、みそ汁や卵焼き、照り焼きのタレや野菜のゆで方などを身につけること

ができました。また、料理で使ったお皿を洗うなど料理以外の家事もするようになりました。そのため、家事を積極的に行うには、楽しくプラスに捉えることが大切だと考えます。

このことから、看護師に必要な力というのは、ネガティブな思考では身につけられないということが分かりました。私が意識していることは一見、当たり前のことに思うかもしれません。ですが、ただこの当たり前を過ごすのと、意識して過ごすのではまったく違うものだと思います。家族の団らんでも意識していれば、自分のほんとに伝えたいことを相手にしっかり伝えることができたり、友達との会話を通して仲が深まったりするかもしれません。また、妹や弟に思いやりをもつことで周りも見ていて不快に思う人はいないと思います。さらに、家事もプラスに見ることを意識すれば身につくものもたくさんでき、家族の一員として目立つ存在となります。私はこの当たり前を自分の財産としてプラスに捉え、夢を実現できるように一日一日を積み重ねていきたいです。

「目標に向かって」

青木中学校　三年　野平　桃叶

私は将来のために今、受験という人生の中の大きな節目に向けて勉強することを頑張っています。

今まで私は、一つの目標に向かって継続して何かを行うことがとても苦手でした。目標ができ、頑張ろうと始めは目標に向かい走ることができるけれど、だんだんと自分と目標との大きな差に落ち込み、途中で走ることを諦めてしまいました。しかし、そんな中私は中学生になって学校での定期テストや模試に向けて勉強することが多くなりました。中学一年生のときは、勉強をしてもなかなかそれが結果にでずに、やっても意味ない、もうやめてしまおうという悪い方向に気持ちが向いていました。そして私は中学二年生になると、多くの新しい仲間と出会いました。その仲間は、何事にも努力して上手くいかないことがあってもこの努力は無駄には決してならないということを思い悩んでいる私に教えてくれたのです。そこから私は、目標を達成することもすごく重要だけれど、その間の過程に意味があると考えられるようになりました。中学二年生の初めての定期テストでは自分なりの勉強の仕方で多くの人に支えてもらいながら三週間の間に必死に勉強しました。三週間という長い期間、継続して勉強するのは、とても大変で、もうやめてしまいたいと思うこともありました。それでも、努力は無駄にはならない、もしこれが結果にでなくてもこの力は自分の大きな武器になると仲間たちの教訓から走りぬくことができました。定期テストの結果は、自分のものとは信じられない良い物でした。私はそこで初めて、やっぱり頑張って努力してよかったと思いました。目標を達成する間では、できないという挫折やどうしたら良いか分からないという迷いなど様々な感情の中で頑張り続けなければいけません。そうした間の過程で得たものは、一度自分はもうやりきった、頑張り切ったと言えるぐらいに努力した人のみが得られるのです。それは簡単なものではなく、間違いなく将来の自分がすごく助けられる力だと思います。一度やりきったという経験がある人は大人になってまた、大きな目標ができても同じように努力することができます。このような

ことから私は、この受験という目標に向かい、勉強を頑張りたいと考えています。

また私はもう一つ今頑張っていることがあります。それは、生活習慣を整え、規則正しい生活を送ることです。

生活習慣を整えるということは、人間生活の中で長く言われていることであり、健康な体は全ての元となるものだと考えているからです。健康な体をもっていなければ努力しても体調が悪く上手く発揮することができなかったという経験をしました。そこから、私は生活習慣を整える重要性をよく考えて、基本的なことの早寝早起きや朝、昼、晩の三食をしっかり食べるということを頑張っています。

私が書いた目標に向かい、勉強することと生活習慣をと整えることの二つはいずれもつながっているものだと思います。だからどちらもおこたらずにしっかり頑張っていきたいです。

発行
川口市青少年保護育成本部事務局
川口市役所子ども部青少年対策室
川口市青木2-1-1（第二庁舎３階）
電話　048-258-1115